

## 刑事訴訟法

渡辺直行著

入門シリーズ

### 入門刑事訴訟法〔第2版〕

A 5 判並製372頁／2700円

〔1993-9・13〕

ロースクール時代に入り、理論と実務の架橋が叫ばれるなかで、多くの判例を取り上げ、刑法法のすべての分野をわかりやすく解説し、刑事手続の全体像を鳥瞰した、初めて刑法法を学ぶ学生のための入門書。

渡辺直行著

### 刑事訴訟法〔第2版〕

A 5 判上製684頁／4300円

〔1969-4・13〕

法科大学院・法学部の学生や司法試験受験生を主たる対象とした充実の基本書。基本から高度な理論までもが十分に理解できるように丁寧に論述。最新の法改正及び重要判例を網羅し、法科大学院コア・カリキュラムに対応すべく大幅に増補・改訂した待望の第2版。

寺崎嘉博著

### 刑事訴訟法〔第3版〕

A 5 判上製582頁／3800円

〔1983-0・13〕

2008年の第2版刊行後の、記録命令付差押え等の法改正や最新の重要判例を盛り込むとともに統計等のデータを更新した。旧態依然とした議論に新風を巻き起こす、目からウロコの刑訴法として信頼できる一冊。待望の第3版。

上口 裕著

### 刑事訴訟法〔第5版〕

A 5 判上製576頁／4000円

〔5321-6・21〕

判例と論点を網羅した体系書。とくに、学習者に「迷宮」となりやすい領域一訴因、公訴事実の同一性、伝聞、裁判の効力一では、基礎から詳述し、平易かつ確実に理解する方法を示した。刑事訴訟法を難解だと思う人の必読書。

辻本典央著

### 刑事訴訟法

A5判上製410頁／3200円

〔5338-4・21〕

待望の本格的な基本書が、満を持してついに登場。学部授業から司法試験対策まで、これ1冊で万全。

平良木登規男著

### 刑事訴訟法 I

A5判上製278頁／3200円

〔1848-2・09〕

法科大学院では、法学未修者に対する科目として「刑事訴訟法I」及び「刑事訴訟法II」を設置しているところが多いので、これに対応する教科書を作成することにした。そこで、これまでの「捜査法」を徹底的に修正するとともに、必要な部分を加え「刑事訴訟法I」の教科書とした。

平良木登規男著

### 刑事訴訟法 II

A 5 判上製364頁／3300円

〔1886-4・10〕

かつて「警察研究」に連載した「アトラダム刑事訴訟法」をもとに、これを全面的に書き改め、必要な部分を加筆して「刑事訴訟法II」として出版することにした。公訴、公判、証拠法、裁判を収録。

光藤景皎著

## 刑事訴訟法 I

A5判上製390頁／3000円

「裁判員法」,「被疑者国選弁護制度」,「即決裁判手続」など最新の情報を盛り込み,高度な内容をより分かり易く解説した待望の教科書。長年「口述刑事訴訟法」として定評があったが,今回より「口述」を外し,読者の要望が多かった事項索引,判例索引も加えた。

[1763-8・07]

光藤景皎著

## 刑事訴訟法 II

A 5 判上製332頁／3000円

刑事訴訟法上の諸制度の目的・立法趣旨,機能を明らかにし,具体的事案解決への実務・学説の歩みをわかりやすく解説する。「刑事実務と理論の架橋」を目指した待望の教科書第2弾。

[1989-2・13]

光藤景皎著

## 口述刑事訴訟法下

A 5 判並製140頁／1300円

上訴以降,控訴,上告,抗告,再審,非常上告,略式手続,裁判の執行を全て収録した,最新の情報による刑事訴訟法の決定版。

[1701-0・05]

川端博著

## 刑事訴訟法講義

A 5 判上製560頁／4300円

好評の『刑法総論講義』・『刑法各論講義』と三部作を成す基本書であり相次ぐ法改正と判例の動向に基づき,刑訴法の全体像を最新の法文に即して理論的観点から鮮やかに描き出し,初学者にも分かるように明快に説明する。上級学習者をもとより研究者や実務家の需要にも応じ得る本格的な体系書。

[1935-9・12]

渡辺直行著

## 論点中心刑事訴訟法講義

(第2版)

A 5 判上製386頁／3300円

本書は,初学者から司法試験受験生までが,本質論に遡った体系的理解ができるよう重要論点を中心に深く掘り下げて考察し,分かり易い表現で解説している。理論と実務の架橋にも配慮した法科大学院実務家教授の刑訴法テキスト。裁判員法及び公判前整理手続等の平成16年改正にも言及している。

[1673-1・05]

反町義昭著

## 司法試験体系的問題解析 刑事訴訟法

B5判並製430頁／3500円

過去問で繰り返し問われている刑訴法の重要論点を「体系順」に並べ替え,重要判例・出題趣旨等の分析を踏まえて,論述するにあたって把握しておくべきポイントを解説する実践的試み。

[5332-2・21]

大阪弁護士立証研究会編

## 実践! 弁護士立証

B5判並製224頁／2800円

弁護人はいつでもどこで何をしたらいいのか。弁護士が広い意味での調査活動に取り組み,納得し,気づきを得,証拠を手元に確保し,法廷に届けるという全ての過程を表現する実務的有益書。

[5198-4・17]

太田茂著

## 実践刑事証拠法

B5判並製450頁／3900円

検事としての豊富な捜査・公判の経験を踏まえ,早稲田大学法科大学院で教鞭をとった著者の長文オリジナル事例に基づく講義の集大成。理論と実務を架橋する刑事証拠法講義の決定版!

[5216-5・17]

太田茂著

## 応用刑事訴訟法

B5判並製348頁／3500円

[5217-2・17]

検事としての豊富な捜査・公判の経験を活かし早稲田大学法学部で教鞭をとった著者が、実践的理論から具体的な事件捜査の経験談、法制史・比較法の視点も踏まえて行った講義の集大成。

川上拓一編著

## 刑事手続法の理論と実務

A5判上製500頁／5500円

[5300-1・20]

刑事手続全体が大きく変貌している現在、新しい手続・制度の下における実務の動向を紹介するとともに、現在の実務の最先端の問題を率直に論じる。刑事裁判の実務家による珠玉の論文集。

田口守一著

## 刑事訴訟の目的〔増補版〕

A5判上製426頁／5700円

[1889-5・10]

刑事司法制度の変革は、刑事訴訟目的論の基礎理論から再構築すべきであるとの視点から、実体的真実主義、精密司法、アレインメント、英米の有罪答弁制度、ドイツの合意手続を論じた旧版に、裁判員制度、ドイツ参審制度、公判前整理手続等に関する6本の最新の論文を追加した増補版。

田口守一著

## 刑事訴訟の構造

A5判上製400頁／6000円

[5347-6・22]

訴訟目的論と訴訟構造論との関係という理論的な問題意識に、司法制度改革が訴訟構造論に及ぼす影響という現実的な問題意識を加え、新たな当事者主義訴訟構造論に関する私見を展開する。

岩瀬徹著

## 刑事訴訟法の基本問題

A5判上製464頁／5000円

[5346-9・21]

「総論」、「審判対象論」、「事実認定・証拠法論」、「上訴論」の括りを設けて刑事訴訟法の基本的問題を追究し、さらに、〈付〉で「少年と医療観察法」の問題を取り上げる論集。

小早川義則著

## デュー・プロセスと合衆国最高裁Ⅰ

残虐で異常な刑罰、公平な陪審裁判

A5判上製344頁／6000円

デュー・プロセスという法概念は周知の割にはその実態が不分明である。本書は、母法の合衆国憲法第14修正のデュー・プロセス条項の沿革に触れつつ合衆国最高裁判例の憲法解釈に即して、その意味内容を具体的に解明する全5巻シリーズの第1巻で、死刑や裁判員制度の問題点を検討する上でも有益である。 [1744-4・06]

小早川義則著

## デュー・プロセスと合衆国最高裁Ⅱ

証人対面権、強制的証人喚問権

A5判上製374頁／6500円

[1959-5・12]

合衆国憲法第六修正の規定する「証人対面権」および「強制的証人喚問権」に関連する主要な合衆国最高裁判例を取録する。

小早川義則著

## デュー・プロセスと合衆国最高裁Ⅲ

弁護人依頼権、スーパー・デュー・プロセス

A5判上製452頁／7800円

[1991-5・13]

合衆国憲法第14修正のデュー・プロセス条項の沿革に触れつつ、主要な合衆国最高裁判例の憲法解釈に即して、その意味・内容を具体的に解明する。

<p>小早川義則著</p> <p>デュー・プロセスと合衆国最高裁IV 自己負罪拒否特権, (付)セントラルパーク暴行事件 A 5 判上製326頁/6500円</p>	<p>母法の合衆国憲法第14修正のデュー・プロセス条項の沿革に触れつつ主要な合衆国最高裁判例の憲法解釈に即して, わが国の最新の動向もふまえ, その意味・内容を具体的に解明する。</p> <p>[5117-5・14]</p>
<p>小早川義則著</p> <p>デュー・プロセスと合衆国最高裁V 二重の危険, 証拠開示 A 5 判上製252頁/5200円</p>	<p>母法の合衆国憲法第14修正のデュー・プロセス条項の沿革に触れつつ主要な合衆国最高裁判例の憲法解釈に即して, わが国の最新の動向もふまえて, その意味・内容を具体的に解明する。</p> <p>[5144-1・15]</p>
<p>小早川義則著</p> <p>デュー・プロセスと合衆国最高裁VI 刑事免責, 実体的デュー・プロセス A 5 判上製354頁/7000円</p>	<p>主要な合衆国最高裁判例の憲法解釈に即して, わが国の最新の動向もふまえて, その意味・内容を具体的に解明する。</p> <p>[5152-6・15]</p>
<p>小早川義則著</p> <p>デュー・プロセスと合衆国最高裁VII(完) 奴隷制度、言論・出版等の自由 A 5判上製430頁/8800円</p>	<p>母法の合衆国憲法第14修正のデュー・プロセス条項の沿革に触れつつ, 主要な合衆国最高裁判例の憲法解釈に即して, わが国の最新の動向もふまえて, その意味・内容を具体的に解明する。</p> <p>[5181-6・16]</p>
<p>小早川義則著 証拠法研究第2巻</p> <p><b>毒樹の果実論</b> A 5 判上製640頁/9600円</p>	<p>“毒樹の果実”は1939年の合衆国最高裁判例に由来するが, その意味内容に関する学界レベルでの研究は不十分である。本書は, わが国での排除法則をめぐる新しい問題状況を踏まえ, この問題に関するアメリカ判例法の全体像を体系的に解明しつつわが国での今後の問題点を提示した必見の基本書である。</p> <p>[1858-1・10]</p>
<p>小早川義則著 証拠法研究第3巻</p> <p><b>共犯者の自白と証人対面権</b> A 5判上製424頁/8000円</p>	<p>最新の合衆国最高裁判例を踏まえて, わが国における共犯者の自白の伝聞例外としての証拠能力の問題点について, 憲法上の証人対面権の観点から問題点を検討し, 私見を提示する研究書。</p> <p>[5189-1・16]</p>
<p>小早川義則著 証拠法研究第4巻</p> <p><b>ミランダと自己負罪拒否特権</b> A 5判上製364頁/7000円</p>	<p>ミランダ判決の革命的意義を再確認し, 2000年のディカソン判決を詳細に紹介しつつ, 主に憲法上の自己負罪拒否特権の観点からわが国における被疑者取調べの問題点を解明する論文集。</p> <p>[5207-3・17]</p>
<p>小早川義則著 証拠法研究第5巻</p> <p><b>科学的証拠とフライ法則</b> A 5判上製250頁/5500円</p>	<p>科学的証拠に関するフライ法則の成敗を中心にアメリカ法の動向を詳論しつつ, わが国における科学的証拠の許容性をめぐる問題点について検討を加える。</p> <p>[5254-7・18]</p>

小早川義則著  
証拠法研究第6巻

## 強制採尿の違憲性

A5判上製226頁／5000円

[5266-0・19]

強制採尿の適法性を肯定する最高裁昭和55年決定及びそれを支持する論者の見解について、アメリカ法と対比しつつ、実体的デュー・プロセスの観点から、その問題点を指摘する論文集。

小早川義則著  
証拠法研究第7巻(完)

## 刑事上の利益に反する供述と伝聞例外

A5判上製240頁／5500円

[5307-0・20]

被疑者の取調べと黙秘権とのかかわりに関する日米最高裁判例を綿密に対比することにより、司法取引等、全く異なる日米両国の実態を明らかにするアメリカ証拠法研究の総括。

小早川義則著

## 死刑判決と日米最高裁

A5判上製220頁／5000円

[5232-5・17]

「二〇二〇年までに死刑制度の廃止をめざす」宣言を契機に、死刑判決に関する日米最高裁の態度を判例に即して比較しつつ、わが国での死刑制度をめぐる議論の進展に寄与する論文集。

小早川義則著

## 日米最高裁判決の交錯

A5判上製136頁／3200円

[5387-2・23]

アメリカ法研究の集大成として、共犯者の自白を中心に言論出版の自由など日米共通の重要問題を取り上げる。

小早川義則著

## 裁判員裁判と死刑判決(増補版)

A5判上製346頁／6500円

[1963-2・12]

多数決による死刑判決につき、アメリカ法と対比しつつ、合理的疑いを超えた立証との関係の点で根本的な疑問があるとする意欲作。新たに絞首刑の違憲性に関する章を追加した。

渡辺修著

## 現代の刑事裁判

A5判上製464頁／8000円

[5120-5・14]

市民の参加を刑事司法へ反映させた裁判員裁判の在り方、包括的防衛権の充実と「可視化」原理の浸透、判例研究方法の工夫の3つのコンセプトを軸に現代の刑事裁判を鳥瞰した研究成果。

佐藤嘉彦著

## 刑事裁判覚書

裁かれば裁かれん、念ずれば花ひらく

A5判上製328頁／6500円

[5108-3・14]

裁判官の実務経験と大学教授の視点から、事実認定、刑の量定、一事不再理効などについて、先輩法曹の論考を交えて論ずる。

杉田宗久著

## 裁判員裁判の理論と実践(第2版)

A5判上製482頁／4800円

[1999-1・13]

裁判員制度の施行準備に深く関わり、裁判員制度施行後には多数の公判前整理手続、裁判員裁判に裁判長の立場で関与してきた筆者が、裁判員裁判の実践の中で、考え、悩み、工夫を重ねつつ行なった理論的検討とその実践への反映、さらには、今後の課題にも言及した画期的研究書。

林弘正著

実際に傍聴し、裁判員裁判に内在する諸問題を分析・考察する。刑事実体法研究者による臨床的研究書。

## 裁判員裁判の臨床的研究

A 5 判上製396頁／8000円

〔5149-6・15〕

安廣文夫編著

制度施行から6年を迎えた裁判員制度運用の経験や研究を踏まえ、現在の刑事裁判における手続上及び実体法上の諸問題を俯瞰すると共に、その解決へ向けての手掛かりを提供する。

## 裁判員裁判時代の刑事裁判

A 5 判上製534頁／5500円

〔5154-0・15〕

原田國男著

一般の人々が刑事裁判に参加する裁判員裁判の時代を迎え、これまでの裁判官裁判に基づく量刑理論と量刑実務に新たな視点からの検討が加えられ、単なる量刑論がまさに量刑法に進化・発展したといえる現在、実際の裁判における量刑判断に影響を与える重要な要素を分析した、量刑の第一人者による意欲作。〔8835-5・11〕

## 裁判員裁判と量刑法

A 5 判上製318頁／3500円

高内寿夫著

第1部では、フランスの予審制度の目的・位置付けを歴史的に分析し、第2部では、「予審的視点」から、わが国の刑事手続の諸問題を検討することで刑事手続における捜査の位置付けを示す。

## 公判審理から見た捜査

予審的視点の再評価

A5判上製412頁／7000円

〔5172-4・16〕

田淵浩二著

刑事訴訟における証拠調べ請求権についての国内初のモノグラフ。ドイツにおける「証拠予断の禁止」原則の形成、マックス・アルスベルクの証拠申請権論、ドイツ刑事公判改革と証拠申請権制限論等の理論的、政策論的テーマにつき、日独比較法的視点から検討。日本における刑事訴訟改革の課題と問題を提起。〔1648-0・04〕

## 証拠調べ請求権

A5判上製276頁／6000円

山田道郎著

問題が錯綜する刑事証拠法という「森」の中から、伝聞法則・自白法則および証拠調べ手続に関する重要論点を取り上げ、従来とはまったく異なった新しい方向から光を投げかけて、問題解明を試みた研究論集。

## 証拠の森

—刑事証拠法研究—

A5判上製272頁／5000円

〔1665-0・04〕

山田道郎著

捜査、訴因、証拠法・証明論、公判手続といったテーマについて、問題設定、解決へのアプローチを、通説・判例とは異なった観点から行う。刑事訴訟法の新しい解釈を提示する注目の書。

## 新釈刑事訴訟法

A 5 判上製360頁／7000円

〔1964-9・13〕

鯉越溢弘著

「我が国の刑事訴訟法は、国家訴追主義を採る」という通説に対して、「我が国の刑事訴訟法は、私人訴追主義を採る」という解釈が正しいということを、訴追理念としての私人訴追主義の意義を明確にし、憲法及び刑事訴訟法の新たな解釈論・立法論を展開した意欲的な論文集である。〔1670-7・05〕

## 刑事訴追理念の研究

A5判上製270頁／5000円

〔1670-7・05〕

松田岳士著

## 刑事手続の基本問題

A 5 判上製256頁／4800円

伝聞法則、おとり捜査、強制処分法定主義等、刑事手続法上の基本論点に関する従来の議論のあり方をその前提から問い直し、刑事手続・刑事訴訟法の基本構造と関連づけて再構築する。刑事手続的な考え方、問題解決の方法の本質的特性を探究し、刑事手続に関する新たな基礎理論のかたちを提示する。〔1863-5・10〕

平田元著

熊本大学法学会叢書15

## 刑事訴訟における片面的構成

A 5 判上製322頁／5000円

第一審「証明なし無罪」に対する上訴は不可能であり、それは有罪判決に対してのみ可能との、上訴の片面的な構成を主たる主張とし問題意識を披瀝する。刑事上訴と事実認定を巡る論文集。〔5213-4・17〕

辻本典典著

## 刑事手続における審判対象

A 5 判上製260頁／5200円

「刑事手続における審判対象とは何か」という、刑事訴訟法理論における重要問題についてのこれまでの研究の総括。〔5151-9・15〕

辻本典典著

## 刑事弁護の理論

A 5 判上製316頁／6000円

刑事弁護人の法的地位を明らかにし、比較法的視点としてドイツの刑事弁護人論を参照しつつ、刑事手続におけるその一般的な責務の分析を経て、個別具体的な問題点の検討を行う研究書。〔5212-7・17〕

浦功編著

## 新時代の刑事弁護

A 5 判上製716頁／7000円

刑事司法の担い手としての弁護士の動向が重要視されている現在、刑事弁護に携わる弁護士が、苦心し苦闘した弁護活動の経験を生かして導き出された「理論」や「手法」をまとめた論文集。〔5218-9・17〕

水野陽一著

## 公正な裁判原則の研究

A 5 判上製226頁／4500円

国際社会からの批判に耐えうる刑事手続全般の運用が求められる現在、ヨーロッパにおいて刑事司法の中心的基準とされる「公正な裁判原則」について、国家という枠組みを超えて考察する。〔5274-5・19〕

清水拓磨著

## 自己負罪型司法取引の問題

A 5 判上製230頁／5000円

量刑格差が従来の刑事法理論との関係でどのような形で問題となるのかという分析視角から、日本に自己負罪型司法取引の導入が許されるか否かを検討する。〔5371-1・22〕

指宿信著

## 電腦空間と刑事手続

A 5 判上製310頁／6000円

ネットワークと電腦空間の発展と深い関係性を有するサイバースペースに関する論考を「GPS 捜査」「監視・傍受」「暗号」「電子的証拠の取得」「越境捜索問題」の5部に纏めた論文集。〔5359-9・22〕

葛野尋之・王雲海編著

## 刑事訴訟における公判中心主義

日本と中国

A5判並製246頁／4800円

〔5354-4・22〕

中国法と日本法の比較を軸として、公判中心主義の意義・機能、それを具体化するための制度・手続などを多角的に論じる。

三井誠ほか編

## 刑事手続の新展開 (上)

A5判上製606頁／6500円

〔5214-1・17〕

刑事手続をめぐる、上下巻合わせて30のテーマについて、主に実務的な視点から、運用の実態等を示した上で、法曹三者がそれぞれの立場からの法解釈、必要に応じて制度・立法の在るべき姿を描き出す。

三井誠ほか編

## 刑事手続の新展開 (下)

A5判上製694頁／6500円

〔5215-8・17〕

刑事手続をめぐる、上下巻合わせて30のテーマについて、主に実務的な視点から、運用の実態等を示した上で、法曹三者がそれぞれの立場からの法解釈、必要に応じて制度・立法の在るべき姿を描き出す。

小坂井久・秋田真志編著

## 取調べ可視化—密室への挑戦

イギリスの取調べ録音・録画に学ぶ

A5判並製208頁／2500円

〔1634-0・04〕

1986年に導入されたイギリスの被疑者取調べ録音手続。大阪弁護士会有志が学者とともにロンドン、プリストル、バーミンガム、オックスフォードの『四都』をまわり、警察、検察代理弁護士、刑事弁護士、裁判官、再審委員会から取材。我が国の被疑者取調べ「可視化」を展望する上で必携の書。

牧野茂・小池振一郎編

## 取調べのビデオ録画

その撮り方と証拠化

A5判並製118頁／2000円

〔5250-9・18〕

「そもそも人は見たいものしか見ない」。取調べの可視化メリット論が先行する中、可視化の意義は何か、取調べ録画映像の実質証拠化の可否等、その撮り方と危険性を問題提起する警鐘の書。

和田進士著

## イギリスの別件逮捕・勾留

A5判上製264頁／5200円

〔5104-5・14〕

日本の別件逮捕・勾留に相当するイギリスの捜査方法であるホールディング・チャージを詳しく考察し、日本における違法な別件逮捕・勾留の抑止に有効な教訓を得ようとする研究書。

稲田隆司著

熊本大学法学会叢書12

## イギリスの自白排除法則

A5判上製198頁／3500円

〔1915-1・11〕

本書は、イギリスにおける自白法則の展開の様子を、その成立前夜にまでさかのぼって概観するとともに、20世紀後半のイギリスで行われた大規模な刑事司法改革の意義を、自白の取扱いのあり方という視座で切り取り、自白法則のみならず不正証拠排除の機能についても検討・分析を加えたものである。

鈴木教司著

愛媛大学法学会叢書11

## フランス旧制度の司法

A5判上製380頁／5600円

〔3197-8・05〕

著者年来の売官制研究の一環であって、わが国に未紹介の分野に取り組んだ意欲作。フランスの司法制度と司法官職がいかに売官制と関係が深いのか、制度論と機能論に分けて考察する。法史学・訴訟法学ばかりか、政治史・行政学の参考書としても有用である。また、法曹のあり方にも多くの示唆を与えてくれる。



山口裕著

## カロリーナ刑事法典の研究

A5判上製602頁／13000円

正式名称「カール5世及び神聖ローマ帝国刑事裁判令」、ラテン語名「カロリーナ刑事法典」、通称「カロリーナ」と呼ばれる法典の全訳及び逐条註解。ドイツ刑事法研究はむろんのこと、ドイツ法史及び社会史研究においても参考となる研究書。

[5285-1・19]

何琳著

## 中国の捜査法

A5判上製326頁／6500円

中国の捜査機関や司法制度・検察制度についての基礎的な知識を紹介し、また、刑事警察官に対するインタビューやアンケート調査によって中国における捜査活動の実態を伝える。

[5286-8・19]

田中利彦編

## アメリカの刑事判例 1

2003年10月開廷期から2007年10月開廷期まで

A5判並製258頁／4500円

刑事手続や刑事実体法に限らず、銃の規制も含め、刑事に関係がある判決を広くとり上げ、アメリカ合衆国最高裁判所の各開廷期の重要な刑事関係判決172件の内容を網羅的に紹介する。

[5224-0・17]

田中利彦編

## アメリカの刑事判例 2

2008年10月開廷期から2012年10月開廷期まで

A5判並製260頁／4500円

刑事手続や刑事実体法に限らず、銃の規制も含め、刑事関係の判決を広くとり上げ、アメリカ合衆国最高裁判所2008年～2012年開廷期の重要判決194件を網羅的に紹介する。

[5291-2・19]

田口守一監訳

## 1つの事件2つの制度

アメリカとドイツの刑事手続

B5判並製310頁／4500円

同じ「1つの事件」が、アメリカとドイツの刑事手続において、それぞれ処理されていく過程を詳述したうえで、日常的な実務の視点から両制度の類似点・相違点を解き明かす。「2つの制度」の実際を知るうえで、研究者には必須であるのはもちろん、充実した索引により辞書として使える貴重な一冊。

[1888-8・10]

光藤景皎・吉田宣之編訳

## ドイツ刑事訴訟法演習

君の知識を試そう

46判並製424頁／5000円

Roxin/Achenbach, Strafprozessrecht, 16. Auflage — Prüfe dein Wissen, Rechtsfälle in Frage und Antwort, 2006の全訳。刑事訴訟法全域について簡潔な質問と解答の形式で構成する。

[5204-2・17]

辰野文理／杉原弘泰／紀藤正樹／

中山善房／河合幹雄 著

アカデミア叢書3

## 刑事裁判を見る目に確かさを

A5判並製178頁／1395円

第1章 被害者の視点から／辰野文理

第2章 検察官の立場から／杉原弘泰

第3章 弁護士の視点から／紀藤正樹

第4章 裁判官の視点から／中山善房

第5章 犯罪統計から／河合幹雄

[9131-8・05]

西原春夫・高銘暄総監修

中国法学会全集6

## 中国刑事訴訟法の理論と実際

A5判上製462頁／7000円

中国人民大学刑事法律学研究中心（センター）は「国家重点研究基地」の一つとして、中国全体の刑事法研究に対して指導的立場にあり、理論的影響力も大きい。本書は、研究と実務に携わってきた当センターの中心的研究者らによる刑事訴訟法の体系的把握のための好著であり、学説を整理している研究書でもある。

[1615-4・03]

福井厚監訳

## ドイツ刑事証拠法

A 5判並製204頁／2800円

当事者主義と職権主義との一見華やかな対立にもかかわらず、ドイツ刑事手続から我々が学ぶべき点はまだまだ多い。本書は、刑事手続の中核をなす証拠法について、ドイツ刑事証拠法のエッセンスを伝える。本書によって、従来の職権主義に対するマイナス・イメージは、根底から払拭されることになろう。 [1490-9・99]

上口裕訳

## 近世ドイツの刑事訴訟

A 5判上製384頁／7000円

[1936-6・12]

ヨアヒム・ヘルマン原著  
田口守一・加藤克佳編訳

ヘルマン教授による比較刑事訴訟法に関する論文、刑事手続における取引と合意に関する論文及び刑事手続の担い手に関する論文を厳選して翻訳、一書とした。

## 市民社会と刑事司法

ヨアヒム・ヘルマン80歳記念論文集

A 5判上製312頁／6500円

[1968-7・13]

## 刑事政策・犯罪学・少年法

守山正・安部哲夫編著

### ビギナーズ犯罪法

A5判上製514頁／3200円

[5304-9・20]

刑法各則等の解釈論等を別個に論ずるのではなく、総合的刑事法の視野から犯罪事件や犯罪現象を考察。それぞれの問題につき各種の刑事政策的ないし犯罪学的な視点も含めて取り扱う教科書。

守山 正・安部哲夫編著

### ビギナーズ刑事政策〔第3版補訂版〕

A5判並製494頁／3000円

[5391-9・23]

令和4年の刑法の一部改正により懲役刑・禁錮刑が廃止され、これを統一する単一刑の拘禁刑が創設されたことから修正を加え、一部の個別犯罪の現況や数値を最新のものとした。

守山正・後藤弘子編著

### ビギナーズ少年法〔第3版補訂第2版〕

A5判並製440頁／2900円

[5392-6・23]

18歳、19歳の「特定少年」を設けた令和3年改正に対応し、令和4年の刑法の一部改正により懲役刑・禁錮刑が廃止され、単一刑の拘禁刑が創設されたことから修正を加えた。

守山正・小林寿一編著

### ビギナーズ犯罪学〔第2版〕

A5判並製490頁／3200円

[5294-3・20]

法学、心理学、社会学といった犯罪学の伝統的な研究領域に加えて、諸外国のトピックも多数取り上げる。各章にコラムを挿入し、身近に親しみやすいよう工夫した入門書。法学部生に最適。

川出敏裕・金光旭著

### 刑事政策〔第3版〕

A5判並製588頁／3500円

[5389-6・23]

刑事政策を体系的に解説した基本書。刑事収容施設法や更生保護法の制定、犯罪被害者の保護救済に係る立法、少年法の改正など、近年の重要な法改正をもれなく盛り込むとともに、実務の運用もふまえて、刑事政策の最近の動向を伝える一冊。

丸山雅夫著

### 少年法講義〔第4版〕

A5判並製394頁／3300円

[5355-1・22]

はじめて少年法を学ぶ人のために、少年法制の歴史、少年法の理念と特徴、運用の実際を明らかにし、非行と少年法の正しい理解と適切な議論のための知識を提供する。

服部朗著

### 少年法、融合分野としての

A5判上製380頁／3000円

[5331-5・21]

少年法を法律学の一分野として狭く捉えるのではなく、人間関係諸科学との関連も大切にしながら、幅広い視野のもとで学ぶ必要性を説き、融合分野としての少年法の姿を描く。

廣瀬健二著

## 少 年 法

現行少年法の制度全般に触れ、比較法、歴史的経緯の重要性から諸外国を含む少年法の生成と展開を概観し、法改正の経緯・展開について論及する。令和3年改正に対応した本格的体系書。

A5判上製670頁／4800円

〔5339-1・21〕

松本勝編著

## 更生保護入門〔第6版〕

第5版以降の法改正と統計数値を踏まえた最新版。社会福祉士や精神保健福祉士を目指す学生、保護司などの更生保護関係者にとって必読の書。

A5判並製328頁／2200円

〔5357-5・22〕

辰野文理著

## 要説更生保護〔第3版〕

保護観察や仮釈放の仕組みを中心に、更生緊急保護、犯罪予防活動など更生保護と呼ばれる領域における諸制度について、その内容やそこに関わる組織や団体などを紹介解説する入門書。

A5判並製124頁／1500円

〔5239-4・18〕

諸澤英道著

## 新版被害者学入門

世界の新しい動向を網羅した初めての体系書。「なぜ被害を受けるのか」「被害は、私たちにどのような影響を与えるのか」などの原因論から、「知る権利」「プライバシー権」「裁判への関与権」「加害者からの弁償」「国からの補償」など、「被害者の権利」に基づく対策論に至るすべての課題を分かりやすく解説。

A5判上製548頁／3800円

〔1477-1・98〕

木村裕三・平田紳著

## 刑事政策概論〔第5版〕

本書は、犯罪とは何か、非行とは何か、そして、これからの刑事政策のあるべき姿を真剣に考察している。「刑事政策の世界の実像に迫り、できる限り明快にわかりやすく解説した刑事政策のテキストの決定版である。表や図版、新聞記事も多用し、理論的水準を保ちながら、通説的にコンパクトに描いた。

A5判並製322頁／2500円

〔1994-6・13〕

米山哲夫著

## 公権力を監視する

国民のための刑事政策原論

治安を維持し国民の経済生活を安定させることによって既存の体制を維持しようとする公権力は、その目的を達成するために犯罪を設定しそれに対処しようとする。本書は、そのメカニズムを明らかにし、公権力の持つて生まれた性質から生じる様々な問題点に切り込む。

46判上製286頁／2400円

〔1975-5・13〕

瀬川晃著

## 犯 罪 学

「人はなぜ犯罪を犯すのか」。本書はこの難問に果敢に挑んだ。犯罪学の標準的な知識を体系的に整理してわかりやすく説くとともに、英米の新動向をふまえて犯罪学のあり方を意欲的に探る。図表や写真を用いてヴィヴィットに犯罪学の魅力に迫り、巻頭に「犯罪学史年表」を付す。

A5判上製362頁／3500円

〔1489-5・98〕

上田寛著

## 犯罪学講義〔第3版〕

現代の犯罪学を理解するために、犯罪減少と理論仮説を適確に整理し、犯罪学の現代的水準を示す待望の教科書。その後の法改正等に対応し、最新の情報を盛り込み丁寧な解説した好評の第2版。

A5判上製304頁／2700円

〔1978-6・13〕

渡辺巧著

## 犯罪学入門

B 5判並製348頁／2800円

犯罪対処の実務にたずさわっている筆者が、その経験を生かしながら、犯罪の諸相を記述した、犯罪学の入門書である。わが国の犯罪の実態、犯罪に対処するための理論や取組みなどを、犯罪類型ごとに分かりやすく解説しており、犯罪防止の方法とその可能性を模索する者のために役立つことを願っている。 [1836-9・09]

菊田幸一著

## 犯罪学〔九訂版〕

A 5判並製720頁／4500円

総合科学たる犯罪学の独立科学としての体系構築の第一歩として本書が編まれた。犯罪学は学問たり得ない神学であるといわれている。混然とした刑事学・刑事政策学を総合科学としての犯罪学に統合し、わが近代的、人道主義的犯罪学の展開を志向する。 [5326-1・21]

川崎友巳著

## 犯罪タイポロジー〔第2版〕

犯罪の類型学

A 5判並製228頁／1900円

刑事法の基礎を学ぶ1つの方法として、具体的な犯罪類型ごとに、犯罪の実態や特徴、原因、犯罪論（刑法解釈論）上の問題、さらには固有の刑事政策上の課題について論じた入門書。 [5131-1・14]

守山正編著

## 犯罪予測

AIによる分析

A 5判並製272頁／3500円

ITによる犯罪分析・犯罪予測、アルゴリズムにより特定地点の犯罪発生予測が可能となり、その活用が進んでいる現在、犯罪予測に伴う問題や弊害、予想される課題を分析する。 [5361-2・22]

守山正編著

## ストーキングの現状と対策

A 5判並製414頁／5000円

ストーキング被害が社会問題となっている現在、科学的知見に基づいた議論、諸外国の状況も踏まえ、考え得るストーキング対策への最も多角的で科学的なアプローチを試みる。 [5272-1・19]

守山正監訳

## 犯罪分析ステップ60

A 5判並製286頁／2750円

イギリス、アメリカの研究者が蓄積してきた環境犯罪学及び状況的犯罪予防の実証研究の成果。警察関係者をはじめ、犯罪学的実証研究の手法を必要とする者にとって必修のマニュアル。 [5145-8・15]

中野目善則・四方光編著

## サイバー犯罪対策

A5判並製356頁／3000円

グローバルな性質を有し、世界的な視野をもって検討しなければならぬサイバー犯罪の現実を踏まえた上で、法理論の基礎に立ち返った現実的なサイバー犯罪対策を考察する総合的著作。 [5334-6・21]

D. S. タンネンハウス著／石川正興監訳

## 創生期のアメリカ少年司法

A 5判並製264頁／3950円

社会は、どのようにすれば、悪に手を染めた若者を公平で、人道的で、かつ正義に適っていると一瞥して分かるやり方で取り扱うことができるのか。世界初の少年裁判所の歴史を紐解く。 [5161-8・15]

ぼくろおんきつ  
 朴元奎著

## 比較犯罪学研究序説

A5判上製292頁／6500円

[5205-9・17]

白石賢著

## 企業犯罪・不祥事の法政策

刑事処罰から行政処分・社内処分へ

A5判上製316頁／4700円

犯罪学の分野における様々な今日の問題について、日米の比較を柱とした比較犯罪学の理論と方法論の基本構成にかかる主要テーマを選定した論文集。

最新の事例に基づいて、刑事罰、行政処分、社内処分、コンプライアンス等の抑止効果を法と経済学の視点を盛り込んで理論的に解明し、多発する企業犯罪・不祥事に対する政策対応のあり方を実務の立場から提示。インセンティブに基づいた制度設計の必要性を説く、実務と法理論をつなぐ政策論。 [1776-8・07]

白石 賢著

## 企業犯罪・不祥事の制度設計

インセンティブに基づく制度設計のすすめ

A5判上製248頁／4000円

食品偽装事件、金融商品取引法違反事件、特定商取引法違反事件、独占禁止法違反事件、中央省庁の不祥事事件等、近時の実際の事件を例にあげ、企業犯罪・不祥事を抑止するための制度設計の在り方を、法と経済学的視点を盛り込み、刑法・行政法等多角的に検討。インセンティブに基づく立法論を展開する。 [1866-6・10]

守山正著

## イギリス犯罪学研究 I

A5判上製312頁／6000円

筆者が過去20年以上にわたり、イギリスの政府機関、大学研究機関、専門家などへの直接のヒアリングや現地踏査、資料収集を行って獲得した情報を元に、実証研究から理論史、政策展開に至るまで幅広い犯罪学・犯罪政策のトピックを詳細に分析し、わが国の刑事政策への示唆も提示するイギリス研究の好著。 [1895-6・11]

守山正著

## イギリス犯罪学研究 II

A5判上製330頁／6500円

[5229-5・17]

前書出版以降に書きためたイギリス関係の論文と、若干のそれ以前の既出論文。21世紀以降のイギリス犯罪学の動向に関する論文のほか、1990年代の論文も必要に応じて収録。

石川正興著

## 犯罪者処遇論の展開

A5判上製268頁／6000円

[5278-3・19]

刑法、少年法、監獄法などの昭和の刑事法改正作業及び平成の刑事法改正作業を通じて、著者が一貫して追い求めてきた「犯罪者処遇」の基礎と諸相を展開し、その到達点を示す論文集。

石川正興編

## 犯罪学へのアプローチ

日中犯罪学学術シンポジウム報告書

A5判並製252頁／2200円

本書は「日中犯罪学学術シンポジウム」報告書です。4回のシンポジウムテーマ「調和社会の建設と犯罪予防」「精神障害者による危害行為の対策」「交通犯罪に対する法的対策」「少年非行に対する法的対応」のそれぞれの日本側発表論文を収録。

[1873-4・10]

吉岡一男著

## 日本における犯罪現象

刑事学各論の試み

A5判上製268頁／5500円

犯罪現象を行為と対応の相互作用の全体像として捉える視点から、警察以下の刑事統計を手がかりに、人身犯、財産犯、性犯罪、交通犯罪、組織と犯罪、少年の犯罪・非行、賭博・薬物など被害者なき犯罪、脱税・選挙・環境など行政犯、情報からみてコンピュータ、ネットワークからサイバー犯罪までを扱う。 [1739-8・06]

吉岡一男著

## アメリカ犯罪学と刑事政策

A 5 判上製236頁／4700円

主要目次 1アメリカ犯罪学と刑事制度論 2合衆国における非犯罪化の動向 3アメリカ刑事司法制度の動向と犯罪理論 4刑事政策と犯罪学 5犯罪被害者をめぐる刑事政策 6犯罪対応における被害と被害者 7犯罪現象の二重性と暗数概念 8経済犯罪・経済刑法の総論ほか [1810-9・08]

松原英世著

愛媛大学法学会叢書17

## 刑事制度の周縁

A 5判上製272頁／4500円

刑事法における周縁的な領域を考察することで、現代社会で刑法・刑罰の果たしている／果たすべき役割を考える研究書。 [5125-0・14]

染田惠著

## 犯罪者の社会内処遇の探求

—処遇の多様化と修復的司法—

A 5 判上製526頁／7500円

我が国において、更生を目指す犯罪者と市民の共生を、社会内処遇の多様化によって図るべく、実証的根拠に基づく実践と多機関連携アプローチを基本に、理論・実務面から鋭く分析。処遇の基礎理論、危機管理、薬物乱用者、性犯罪者処遇から修復的司法アプローチの活用まで、初めて体系的に論じた注目の書。 [1725-8・06]

小長井賀興著

## 犯罪者の再統合とコミュニティ

司法福祉の視点から犯罪を考える

A 5 判上製200頁／3700円

再犯罪率の増加を契機に犯罪者処遇における福祉的支援の必要性が再認識されている現在、犯罪者に対する「責任」を手掛かりに、犯罪者処遇の在り方を探求する。 [1980-9・13]

吉田敏雄著

## 法的平和の回復

応報・威嚇刑法から修復的正義指向の犯罪法へ

A 5 判上製422頁／7000円

刑法の伝統的違法論、責任論、刑罰論を根底的に問い直し、修復的正義を包含する「法的平和の回復」の視点から、刑罰にとらわれない新しい「犯罪法」を提唱する。これに基づき、(少年)犯罪者の処遇、犯罪被害者の救済、及び、社会的連帯の実践的方策の比較法的考察を行う。 [1705-3・05]

渥美東洋編

## 犯罪予防の法理

警察政策学会10周年記念

A 5 判上製318頁／3000円

わが国では安全な社会の実現のための、全国民協力の包括戦略に基づく犯罪ガバナンスの仕組みはまだ整っていない。これを生み出す契機として研究者、実務家により編まれた論集。 [1819-2・09]

ドイツ対案グループ著

光藤景皎・高橋則夫他訳

## 犯罪被害の回復

—対案・損害回復—

A5判上製224頁／5000円

本書は、加害者に刑罰を科すという伝統的な刑事司法制度の中で、加害者に被害者の損害を回復させる新たなシステムの導入を構想するドイツ対案グループの挑戦である。 [1595-6・02]

北澤信次著

## 犯罪者処遇の展開

A 5 判上製304頁／3800円

著者は保護観察官として豊富な経験を持つ社会福祉の教育研究者。その実践の中から紡ぎ出した論稿を集大成した単著。犯罪者・非行少年の社会内処遇をソーシャルワークとして構成しようとする志向を根底において、制度の生成から組織と方法、薬物依存から被害者問題までの展開と今後の課題を考察する。 [1614-6・03]

加藤久雄著

## 人格障害犯罪者と社会治療

—高度に危険な犯罪者に対する刑事政策は如何にあるべきか—

A5判上製394頁／3300円

本書は、著者が約30年間にわたり研究してきた「人格障害犯罪者」に関する刑事政策の集大成である。大阪池田小事件を契機に執筆された本書は、高度に危険な「人格障害犯罪者」には刑法を改正して、ドイツ型保安処分制度を導入し、21世紀の刑事政策モデル「社会治療」を提言している。 (1587-5・02)

ロベルト・F・J・ハルニシュマッヒャー著 西原春夫監訳

## ドイツの組織犯罪

A5判上製194頁／3200円

ドイツにおける組織犯罪を中心として様々な現代型犯罪現象の実態を示し、その分析を行う。犯罪の国際化によって、内外の組織犯罪や経済犯罪などは各国において深刻な問題となっている。フーリガンなどわが国においても今後問題となるだけに、犯罪対策に従事する刑事実務家にとって有益な書である。 (1578-6・02)

諸澤英道訳著

## 被害者のための正義

A5判並製292頁／2800円

(1625-1・03)

第I部 犯罪および権力濫用の被害者のための正義に関する基本原則宣言 第II部 被害者のための正義に関するハンドブック 第III部 政策決定者のためのガイド 第IV部 参考資料(被害者学専門用語(英語)の日本語訳)

山口直也編著

## 子どもの法定年齢の比較法研究

A5判上製396頁／6000円

(5195-3・17)

選挙権年齢が18歳に引き下げられ、民法の成年年齢など日本社会の子ども観が変革している現在、特定の年齢を設定する各種法領域の立法事実を諸外国の立法例を参考に横断的に検討する。

横山潔著

## イギリスの少年刑事司法

A5判上製384頁／8000円

イギリス「1998年犯罪及び秩序違反法」「1999年少年司法及び刑事証拠法」「2003年性犯罪法」ほかの近時の基本刑事立法を基にして、新しい少年刑事司法システム・社会的弱者の保護・性犯罪処罰規定と新性犯罪法による旧性犯罪法律の包括的整備を提示し、イギリス政府の少年刑事司法への取組を分析する。 (1711-8・06)

横山潔著

## イギリス性犯罪法論

A5判上製484頁／10000円

(5225-7・17)

イギリスの現行性犯罪法律の中核となっている「二〇〇三年性犯罪法」(法律第四二号)(Sexual Offences Act 2003)(c.42)を考察するもの。同編訳『イギリス二〇〇三年性犯罪法』も参照されたい。

横山潔編訳

## イギリス二〇〇三年性犯罪法

A5判上製226頁／5000円

(5226-4・17)

二〇一一年「二〇〇三年性犯罪法」(救済)(スコットランド)命令(スコットランド法律的文書第四五号)(Sexual Offences Act 2003 (Remedial) (Scotland) Order 2011) [S.S.I.2011/45]による改正までの正文を含む、「二〇〇三年性犯罪法」本文の邦訳。

丸山雅夫著

## カナダの少年司法

A5判上製362頁／6000円

カナダ少年司法の独立過程から、非行少年法、少年犯罪者法、少年刑事裁判法の制定・改正過程を豊富な資料だけでなく、時代背景や社会情勢をも視野に入れて跡づけ、それぞれの内容を詳細に検討する本格的な研究書。主要な個別的論点をも検討の対象として、わが国の少年法制の今後にひとつの示唆を与える。 (1714-2・06)



服部朗著

## アメリカ少年法の動態

A5判上製390頁／8000円

アメリカ少年法の実相を、連邦よりも州、州よりもカウンティに焦点をあてて考察。フィールドワークを盛り込みつつ、その時々々の社会経済情勢、犯罪状況などと複雑に絡み合いながら動き続ける「現に行われている法」としての少年法を捉える。

[5103-8・14]

服部朗著

## 少年法における司法福祉の展開

A 5 判上製364頁／7000円

司法と福祉との交錯・統合をテーマに、少年法の歴史、軽微な非行への対応、適正手続、少年法および児童福祉法改正、被害者、市民参加について考察。時代動向を押さえながら少年法が直面する課題を描き出し、理論的検討を加えるとともに、今後の少年法のあり方を展望する。

[1706-1・06]

渡邊泰洋著

## イギリス連合王国における少年法制の変遷

「処罰」と「福祉」の相克

A 5 判上製248頁／5000円

20世紀初頭の少年裁判所誕生に至る道程を辿りつつ、犯罪少年に対する諸制度を生み出した社会的政治的状況を考察しながら、研究が手薄なスコットランド、北アイルランドも対象としてイギリス連合王国全体における少年司法の変遷を今日に至るまで分析する意欲的作品

[1785-0・08]

増田義幸著

## イギリスの刑事責任年齢

A 5 判上製298頁／7000円

責任無能力の推定という特殊なシステムが長らく存在していたイギリスの刑事責任年齢について、子どもを取り巻く社会的環境を通じて将来的な展望を考察しようというもの。

[5221-9・17]

石川正典・曾根威彦・高橋剛夫・田口守一・守山正著

## 少年非行と法

46判並製196頁／1800円

今日、広い関心を集めている少年非行について、その原因、少年犯罪の特質、少年審判手続、非行少年やその被害者あるいは社会の立ち直りの問題更には非行少年の処遇についてわかり易く講義。少年法改正直前に行われた早大法学部公開講座の記録である。一般の方々のみならず、中学生や高校生にも一読を勧めたい。

[1549-2・01]

斉藤豊治著

## 少年法研究 ②

少年法改正の検討

A 5 判上製338頁／6500円

少年法が甘すぎるから少年非行が増しているとの言説が横行して、厳罰化改正が行われた。しかし、少年非行の問題はどの程度解消されたのであろうか。非行や犯罪の原因を法律や司法制度に求めるのは本末転倒ではなかろうか。少年法改正を科学的かつ冷静な目で批判的に吟味し、あるべき方向を示唆する。

[1738-X・06]

藤吉和史著

## 少年犯罪と触法行為者

A5判上製224頁／4500円

少年犯罪に対する処遇はどうあるべきか。最近の少年法改正で少年法の理念はいかに変貌を遂げたのか。また、精神障害者の触法行為に対する処遇はどうあるべきか。本書は「心神喪失者等医療観察法」が施行される今、少年や精神障害者に対する責任や刑罰、処分という問題とともに考えるための一書である。

[1692-8・05]

山口直也著

## 少年司法と国際人権

A 5 判上製434頁／6000円

わが国の少年司法は国際人権法に違反していないか。4回に及ぶ少年法改正の内容も含めて、少年司法の諸課題を国際人権法の観点から鋭く分析する。

[1997-7・13]

山田美香著

## 日本植民地・占領下の少年犯罪

台湾を中心に

A 5 判上製200頁／6000円

〔1977-9・13〕

日本植民地時代の台湾を中心に、その土地の歴史的背景、政治的文脈を中心に考察し、構造的に近代以降の少年犯罪を支える様々な状況を研究する。植民地時代性の限界と戦後の少年福祉との関連を模索する研究書。

斉藤豊治・守屋克彦編著

## 少年法の課題と展望 第1巻

A 5 判上製328頁／3700円

2000年の少年法改正で少年司法は試練を体験しつつある。改正法の下で理論および実務が直面する重要問題、少年法改正の波及的な効果などについて、第一線の実務家を中心に明らかにする水準の高い書物であり、今後予想される改正法の見直しや今後の少年法の発展を考えるのに必須の文献となろう。〔1695-2・05〕

斉藤豊治・守屋克彦編著

## 少年法の課題と展望 第2巻

A 5 判上製348頁／3700円

2006年には少年法改正の見直しが予定され、さらに第2次改正の動きが顕在化している。本巻では国際的動向を見据えながら、少年審判のあるべき姿、国際準則と法改正、審判非公開と匿名報道、少年司法への市民参加など、課題を気鋭の研究者、実務家が分析しており、わが国の少年法研究の水準を示す。〔1696-0・06〕

西原春夫編

## 調和社会の建設と犯罪予防

A 5 判並製108頁／900円

本書は、2006年（平成18年）6月10、11両日に中国四川省綿陽市で行われた、中国法学会犯罪学研究会、中国犯罪学研究会、日中刑事法研究会共催、アジア平和貢献センター協賛の第15回学術討論会中の日中学術交流セッション（6月10日）における報告・発言をまとめたものである。〔1734-7・06〕

三原憲三著

## 死刑廃止の研究〔第6版〕

A5判上製842頁／10000円

刑罰論の根幹に関わる死刑問題に対し、問題の所在を整理し、歴史的・比較法的・実証的観点から死刑廃止論を明解に展開した労作の第5版。改訂にあたり、死刑廃止運動を巡る最新の議論状況を加え、死刑再考を促す。巻末では死刑に関する豊富な資料が収録されており、死刑制度を論じるうえで必携の書。〔1864-2・10〕

三原憲三著

## 死刑存廃論の系譜〔第6版〕

A5判上製640頁／6000円

わが国は死刑制度を存置しているわけですが、どうして、こんな凶悪な犯罪が毎日のように発生するのだろうかということ。このことから、死刑には凶悪な犯罪を抑止する効力はないのではないかという議論が再熱しています。その際に、本書がその一助になればと思います。〔1796-6・08〕

三原憲三著

## 誤判と死刑廃止論

A 5 判上製442頁／6000円

既刊『死刑存廃論の系譜』〔第6版〕の姉妹編にあたる。著者の長年の研究を集大成した論文集。最新の資料をもとに「名張毒ぶどう酒事件」、「袴田事件」、「布川事件」、「足利幼児殺害事件」など、その他多くの事件を扱いつながら、多くの人が死刑について真剣に向き合い、論じるうえで必携の書。〔1905-2・11〕

王雲海著

## 死刑の比較研究

中国・米国・日本

A5判上製236頁／4500円

〔1689-8・05〕

第1章死刑の罪名 第2章死刑の様式 第3章死刑の条件 第4章死刑の執行方法 第5章死刑の前後刑罰 第6章死刑の社会的基礎

松宮孝明著

## 刑事再審制度の意味とその改革

A5判上製240頁／5000円

「旧証拠のかさ上げ」や「認定事実の入れ替え」は、事実認定そのものを行わない再審請求審の性格に反し「二重の危険」禁止などの請求人の憲法上の権利を害し、ひいては裁判の確定制度そのものを破壊してしまう。また、再審請求審の予備審的性格から、請求人への証拠開示や手続保障の必要も引き出されるのであり、それを明文化する法改正も必要である。 [5381-0・22]

林弘正著

## 児童虐待〔改訂版〕

—その現況と刑事法的介入—

A5判上製312頁／4000円

児童虐待という社会的病理現象は、マスメディアの報道によりその悲惨な状況が明らかにされている。本書は、わが国における児童虐待の現況を解析し、児童虐待が社会的に許容されない犯罪行為であり刑事制裁の対象とすべきことを、被害者支援を考えつつその問題点を刑事法的視点から考察するものである。 [1747-8・06]

林弘正著

## 児童虐待 II〔増補版〕

問題解決への刑事法的アプローチ

A5判上製524頁／6000円

本書は、児童虐待問題に対し刑事法的アプローチを企図する刑事法研究者による待望の第二論文集である。理論刑法学、被害者学及び臨床心理学の知見を縦横に駆使し、裁判実務で顕在化した多数の事例を分析した児童虐待問題の、基本書であるとともに最先端の研究成果を集大成した論文集でもある。 [1922-9・11]

林弘正著

## 児童虐待の司法判断

A5判上製628頁／12000円

[5282-0・19]

児童虐待は刑事制裁の対象であるとし、刑事判例187事案および民事判例10事案を、「被害者のサポート」「加害者への治療プログラム提供」の観点から考察する。

吉岡一男著

## 刑事学各論の研究

—企業秘密から企業犯罪まで—

A5判上製246頁／5500円

犯罪現象を逸脱行動と対応活動の相互作用の全体像として捉える視点から、企業秘密侵害罪の立法化をめぐる議論、情報財・財産的情報を対象にした財産犯罪の可能性、行政犯の自然犯化もいわれる脱税などの租税犯罪、ホワイトカラー犯罪の研究に始まり組織体の犯罪としても論じられる企業犯罪を扱う論文集 [1537-9・00]

高橋則夫著

RJ叢書

## 修復的司法の探求

A5判上製190頁／3500円

修復的司法は、これまでの刑事司法が念頭になかった「被害者・加害者・コミュニティの癒し、回復、再生」を課題とする。絶望の淵に沈む被害者、社会から排除される加害者、不安と疑心と敬意に満ちたコミュニティの修復はどうしたら可能か。本書は、修復的司法とは何かを探求する注目すべき書である。 [1602-2・02]

テッド・ワクテル著・山本英政訳

RJ叢書2

## リアル ジャスティス

修復的司法の挑戦

A5判上製166頁／2900円

被害、加害の当事者は親族や友人を伴ってカンファレンスに参加する。そこで、彼らは「再生」のための話し合を行う。事件をふり返り謝罪する加害者。受けた苦痛を告白する被害者。本書は学校、職場、司法の場での実践例を豊富に盛り込み、関係者間の直接対話の意義と効力を説いた修復的司法の入門書である。 [1688-X・05]

ゲリー・ジョンストン著／西村春夫監訳

RJ叢書3

## 修復司法の根本を問う

A5判上製268頁／5300円

近代刑法に即して事件を「犯罪」として立件するとすべき事件の本質は見失われるという。行為の構成要件や違法性の論議が中心に据えられ、被害者が実際に被る苦痛、生活不如意などの害悪の影響は焦点から外されるからである。人及び人との関係に注目する修復司法はそこを問い質し正義の論調をスタートさせる。 [1709-6・06]

吉田敏雄著

RJ叢書4

## 犯罪司法における修復的正義

A5判上製206頁／3500円

犯罪司法における修復的正義の位置づけを総論的に論じた上で、刑事実体法、刑事手続法及び行刑における修復的正義を各論的に論じ、修復的正義の実現として注目を浴びているイングランド少年法制を批判的に検討し、最後に、近時の世界的傾向である「新しい懲罰性」の共通要因を分析した。 [1742-8・06]

高橋則夫著

RJ叢書5

## 対話による犯罪解決

修復的司法の展開

A5判上製202頁／3500円

著者の修復的司法研究の第2弾であり、近時の過度な被害者関係の刑事司法の動きから修復司法へという、さらなるパラダイム転換の可能性を探求する。修復的司法の真髄である対話による犯罪解決の道を探り、被害者・加害者・コミュニティの3者の再生を構想する書である。 [1773-7・07]

ジョン・ブレイスウェイト著 細井洋子他訳

RJ叢書6

## 修復的司法の世界

A5判上製314頁／3000円

ブレイスウェイトは、1989年に「再統合的恥付け理論」を発表し、刑事司法の世界に大旋風を巻き起こした。その後、修復的司法は世界的に大きな潮流となり、その理論・実務をリードしてきたブレイスウェイトは今やその世界的権威となった。本書は、ブレイスウェイトの手になる多数の論文を初期から近時のもの [1801-7・08]

ジョー・グディ著 西村春夫監訳

RJ叢書7

## これからの犯罪被害者学

被害者中心的司法への険しい道

A5判上製398頁／8000円

被害者の支援が被害者学であるとするのは早計であろう。犯罪被害及び被害者を政治的、司法的、グローバル社会的な状況との関連で捉え直し、被害の特質、原因、結果と回復、公私の対応、予防を、加害者のことも視野に入れながら、科学的・多面的・被害者中心的に考察する。実践家から研究者等に必読の書。 [1899-4・11]

細井洋子・西村春夫・高橋則夫／編著

RJ叢書8

## 修復的正義の今日・明日

後期モダニティにおける新しい人間観の可能性

A5判上製328頁／6300円

修復的正義という思想は、世界的に大きな潮流となっている。世界の動向に軸足を置きながらわが国の社会に目を向け、司法、家庭、教育、地域における修復的人間観の可能性を探る。それを促進するための道を一方では制度・立法への働きかけに、他方では市民意識の涵養をはかることに求める。 [1879-6・10]

西村春夫・高橋則夫編著

RJ叢書9

## 修復的正義の諸相

細井洋子先生古稀祝賀

A5判上製368頁／7500円

修復的正義・修復的司法に関する現在までの到達点を示す。

[5155-7・15]

山田由紀子著

RJ叢書13

## 対話の会20年の修復的司法実践

被害者加害者対話から

A5判上製186頁／4000円

対話の会20年の歩みを正直にさらけ出し、研究者・実務家・当事者・地域社会の方々からの批判・意見に基づいて、日本における修復的司法実践の道筋を可能な限り見極めたいというもの。

[5393-3・23]

常磐大学国際被害者学研究所編

講演会論文シリーズ

## 被害者学とは何か

A5判並製68頁／1000円

被害者学の複雑多岐に渡る定義、彩り豊かな歴史、多文化的なルーツ、さらに被害者の権利から被害者補償、被害者サービス、修復的司法における調停の役割など被害者学の広範な事象に触れながら被害者学の領域を雄弁かつ明確に提示する。

[9139-3・05]

---

常盤大学国際被害者学研究所編

講演会論文シリーズ2

## ドメスティック・バイオレンスへの対応

被害者と手を携えて

A 5判並製98頁／1000円

アメリカの視点から概観した講演と参加者からの質問に答える形で進めたセミナーの内容、さらにドメスティック・バイオレンスに携わっている参加者がモデル事例検討に直接加わって意見交換した記録を収録。

[9150-4・06]

---

西田博・小西暁和編著

## 日本の矯正・保護を動かす「外の力」とは

A 5判並製286頁／2300円

各方面で活躍する講師の組み合わせによる連続講義を通じて、わが国の矯正・更生保護の変化がどのような社会との関わりで生じているかを理解し、今後の日本の矯正・保護の方向性を探究する。

[5372-8・22]

---

丸山泰弘編著

グリーンブックレット15

## 刑事司法・少年司法の担い手教育

司法の課題と大学教育のこれから

A5判並製90頁／800円

刑事司法・少年司法の担い手をどのように養成していくのかという今日の大学教育の重要課題の一つに取り組む。2021年11月27日開催の立正大学法学部創立40周年記念シンポジウム。

[9283-3・23]

---

赤田実穂・川崎友巳・小西暁和訳

## アメリカのホワイトカラー犯罪

名誉なき巨富

A5判上製1040頁／15000円

アメリカで生起する多様なホワイトカラー犯罪を「事例研究」を用いながら網羅的・体系的に犯罪学の知見に基づいて分析する。アメリカにおける重要なホワイトカラー犯罪研究史『Profit Without Honor: White-Collar Crime and the Looting of America』[第6版]の翻訳。

[5310-0・20]

---